



平成26年度

事業計画書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

ノーステック財団

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター

<目次>

平成26年度事業計画の内容.....	- 1 -
I. 基礎的・先導的研究支援事業.....	- 1 -
1. 研究開発支援事業.....	- 1 -
2. 北海道の食の高付加価値化に向けた取組.....	- 2 -
3. 幌延地圏環境研究事業.....	- 2 -
II. 実用化・事業化支援事業.....	- 2 -
1. 事業化プロジェクトの発掘・推進事業.....	- 3 -
2. 実用化・事業化開発支援事業.....	- 4 -
3. 販路開拓・販売促進事業.....	- 5 -
4. 中小企業人材育成事業.....	- 5 -
5. 地域の仕組みづくり事業.....	- 5 -
III. ネットワーク形成事業.....	- 6 -
1. 北海道バイオ産業クラスター・フォーラム事業.....	- 6 -
2. 北大リサーチ&ビジネスパーク推進支援事業.....	- 6 -
3. JICA研修事業.....	- 6 -
IV. 産学官連携推進事業.....	- 7 -
1. 「コラボほっかいどう」の管理運営.....	- 7 -
2. 「グリーンケミカル研究所」の管理運営.....	- 7 -

H 2 6 年度業務計画の重点推進項目

昨年度は、食品機能性に関する北海道独自の認証制度である「北海道食品機能性表示制度」（ヘルシーD o）が本格運用されるなど、当財団が取組んできた「食の高付加価値化」に係る“シカケ”が具体的に歩み出した年と言えます。今後も安心・安全で機能性を有する北海道の食ブランドを定着させ、食クラスターのさらなる発展・活性化を目指した具体的事業の推進が期待されており、当財団は、食クラスター活性化のリーダー的役割を担う活動を積極的に展開していきます。

当財団の中長期アクションプランである「2020プラン」では、北海道独自の産業クラスターの形成を使命に定め、「食」「健康科学」「環境」の3分野に軸を据えた活動を展開し、それらの振興を通じて北海道の発展に貢献するとしています。平成25年度までの“第一ステージ”では、北海道独自の産業クラスターと位置づけられる「食クラスター」の形成に向け、食品の「安全性・有用性評価分析プラットフォーム」や「食品試作実証プラットフォーム」の構築に向けた取組み、「さっぽろヘルスイノベーション‘Smart-H’」事業、「グリーンケミカル研究所」の建設・運営事業等に取り組んできました。

平成26年度は、「2020プラン」における“第二ステージ”の開始年にあたります。そのため、「食クラスター」や食と医の連携による国民の健康維持・増進・回復を目的とした「健康科学産業クラスター」の形成に向けた取組みをより一層強化していくとともに、新しく取組む「環境産業クラスター」の創造を見据えた構想づくりにも着手していきます。

これらを踏まえ、本年度は「2020プラン」に掲げた以下の3つの項目を「重点推進項目」とし、その確実な実現を期すものとします。

< 3つの重点推進項目 >

1. 「食クラスター」の活性化
2. 「健康科学産業クラスター」形成に向けた具体的事業の立ち上げ
3. 「環境産業クラスター」形成に向けた具体的構想づくり

平成26年度事業計画の内容

平成26年度については、以上のような重点推進項目を踏まえ、公益財団法人として掲げた4本の事業（基礎的・先導的研究支援事業、実用化・事業化支援事業、ネットワーク形成事業および産学官連携推進事業）に沿って以下のとおり活動を展開していく。

I. 基礎的・先導的研究支援事業

本事業では、大学・試験研究機関等の研究者や技術者への研究開発支援と、地域資源や地域特性等の活用に向けた基礎的・先導的研究開発等への支援を行っていく。

1. 研究開発支援事業

(1) イノベーション創出研究支援事業

大学等の研究者の研究成果を活用する実用化研究開発、地域資源や地域特性等の活用に向けた基礎的・先導的研究開発の支援を行う。

①発展・橋渡し研究補助金

北海道の将来にとって有用な新技術の創出や地域産業の振興に繋がる可能性が高い「実用化研究」に向けた研究開発を支援する。

②スタートアップ研究補助金

北海道の地域施策に関連した研究や地域課題を解決する独創的且つ萌芽的研究等を支援する。

③育成・サポート事業費（事務費）

本道の科学技術振興を目指した優れた研究開発計画を発掘する。研究補助金に採択した研究課題については事業化に向けたサポート業務を行う。

(2) 若手研究人材育成事業

次代を担う若手研究者が行う独創的な研究を支援するとともに異なる分野の研究者間のネットワークを形成し、将来の本道の研究基盤を確立する。

①若手研究人材・ネットワーク育成補助金

研究課題を広く公募する。専門家による書面審査や審査委員会を実施し、将来の北海道の科学技術力の強化及び新産業創出に向け優れた若手研究人材を発掘する。

審査委員会で選定した優れた若手研究者に対して研究助成金を交付する。

②育成・サポート業務

若手研究者と、企業の技術者や行政などの支援人材との交流機会を作り、人的ネットワークの形成を支援する。



若手研究人材補助金を受け北海道科学技術奨励賞を受賞した北大吉田助教

2. 北海道の食の高付加価値化に向けた取組み

(1) 食の安全性・有用性研究評価プラットフォームの構築

北海道の農林水産素材の付加価値向上のため、食品機能性評価手法や「北海道食品機能表示認証制度」(ヘルシーD o)を活用する食の安全性・有用性プラットフォームを構築する。

(2) さっぽろヘルスイノベーション‘Smart-H’事業の推進

文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム「さっぽろヘルスイノベーション‘Smart-H’」事業を着実に推進し、社会実装に向けた取組みを展開する。

(3) フード&メディカルイノベーション(FMI)国際拠点事業の支援

北大リサーチ&ビジネスパークに設置されるFMI国際拠点施設内事業(文部科学省COIートライアル事業等)への支援を行う。

また、「食と医の健康研究会」(平成24年設置)にて議論された内容をベースに、食と医の連携による健康に関する取組むべき事項の整理と具体化を図る。

3. 幌延地圏環境研究事業

(1) 地層内の未利用有機物のバイオメタン化に関する研究

メタン生成微生物の基質(餌)の生成メカニズムの解明を引き続き最重点で行い、メタン生成効率の飛躍的向上を目指す。

また、将来の地層内試験に向けて、室内モデル試験装置の設計に着手するとともに地層内の環境に関する研究を行う。

(2) CO₂の地中固定化に関する研究

バイオメタン生成研究にシフトし、CO₂の地中固定化に関する研究は、引き続き基礎研究を中心に行う。

II. 実用化・事業化支援事業

本事業では、北海道独自の産業クラスター創出を目指して、道内の企業および地域の各種ニーズに広く対応し、一次対応からビジネスプラン検討、開発、事業化までの各ステップにおいて、一貫した支援活動を展開していく。

また、地域の仕組みづくりとして、道内各地域における地域産業クラスター研究会や中核支援機関との連携のもと、地場産業の振興や地域活性化に向けた取組みを支援していく。

1. 事業化プロジェクトの発掘・推進事業

(1) 食クラスター活動とフード特区事業の推進

食クラスター連携協議体やフード特区機構と連携し、北海道における食の総合産業化や食の研究開発拠点化に係る取組みを展開する。

(2) 次世代型技術研究開発事業

北海道の産業創出基盤の向上を目指し、地域研究開発プロジェクトの立ち上げ、大学等研究機関の研究開発基盤力強化、企業の研究開発力・事業化力の強化等の支援を行う。

(3) 新ビジネス創出事業

①地域新ビジネス創出連携事業

当財団が地域資源等を活用したプロジェクト等の創出を推進するためには、地域の産業支援機関との連携を密にすることかつ技術支援機能（サポート機能）の整備を図って行くことが必須であり、そのために地域の産業支援組織に対しテーマ発掘に係る活動費等の支援を実施する。

②新事業創出のためのトライアル事業

当財団の中期計画に基づく各クラスター形成事業の新規開拓のため、新規事業を試行的に組み立て実施する。

(4) 食品試作実証事業の推進

道産食品の高付加価値化を図るためには、道内食品加工業者の技術のレベルアップが必要であり、技術習得や技術を応用した試作品の開発など地域版試作実証試験に係る支援を実施する。そのために食品試作実証プラットフォームを活用した食クラスタープロジェクトを推進する。

(5) 「ノーステック道内企業等視察会」の実施

当財団賛助会員、出損企業等を中心に参加者を募り、年1回を目処に道内企業や企業経営に役立つと思われる施設・研究機関等の視察会を実施する。

(6) プロジェクトマネージャー活動事業

北海道の地域プロジェクト創出支援制度を活用し、「食」と「ものづくり」のプロジェクトマネージャーを配置し、地域資源の発掘を行い、産官学のネットワークを活かした新技術や新製品開発などの地域プロジェクトを創出し、地域産業の活性化を図る。

(7) 機能性リッチ食素材料理レシピ作製プロジェクト

北海道産の機能性リッチな食素材を活用し、生活習慣病等改善のための料理レシピを作製し、配食・給食サービス事業者への活用促進を図る。

2. 実用化・事業化開発支援事業

(1) 札幌型ものづくり開発推進事業

札幌市の様々な産業をけん引する「重点分野」及び、札幌市産業全体の底上げが期待される「ものづくり分野」において、札幌市内の中小企業者等が行う新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）の取組みを支援する。

(2) 福祉産業共同研究事業

産学官による医療・福祉・看護・介護分野と食・IT・デザイン分野との連携を図るほか、冬期の課題に対応した新たな福祉・介護器具等の開発を促進し、札幌市の地域特性を生かした新技術・新製品の開発を通じて、今後の札幌市経済を牽引する「健康・福祉」分野の産業振興を図る。

(3) フードイノベーション創造支援事業

札幌圏の「食・健康」分野の研究者育成を図るとともに、研究成果を確実に札幌市内企業へと繋げ、企業と研究機関が共同して行う事業化・実用化に向けた実証研究を推進する。

また、国内外の販路拡大を視野に入れた食・バイオ関連企業による機能性素材の科学的データ取得を支援し、食関連産業を振興する。

(4) 札幌発の環境産業創出事業

札幌市内に集積する大学等研究機関と市内企業が連携した「環境・エネルギー」分野における研究開発・実証実験・製品開発の取組みを推進し、積雪寒冷地である札幌市の特色を活かした環境・エネルギー産業の創出及び拡大を図る。

(5) 地域イノベーション創出協働体事業

経済産業省の「地域オープンイノベーション促進事業」を活用し、北海道地域における技術的な強みを有する「食関連産業」分野に属する企業の技術力向上や新技術の創出を図るため、道内メンバーで構成する地域イノベーション創出協働体を設置して、公設試験研究機関等に試験研究検査設備を整備・活用する。

(6) 中小企業応援ファンド事業

①事業シーズ可能性拡大支援事業

地域における新事業展開等のアイデアをビジネスプラン段階にレベルアップするために必要な小規模な試作・開発やテスト事業等の試行を通じて担い手企業のビジネス開発を支援する。

②市場適応能力高度化促進支援事業

開発した商品やサービスの質の向上を図ることで市場適応能力を高めるなど、事業化を軌道に乗せるための一連の取組みを支援し、企業の事業化をサポートする。

③ブランド化促進支援事業

道内で生産・供給される商品・サービスの改良、新商品・サービスの開発か

ら販路開拓、PR戦略の確立等の北海道ブランド化に向けた一連の取組みを支援する。

(7) ノーステック経済産業支援事業

北海道の産業の振興発展に寄与するため、ノーステック財団として必要と認める道内企業等が実施する調査研究事業、研究開発事業、事業化推進事業、及び北海道の産業振興に必要な基盤整備等の事業に対し支援を行う。

(8) サポートインダストリー事業

ものづくり基盤技術の強化に向けた支援事業を実施するため、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業の利用を図る。

(9) 知的財産セミナー

大学および支援機関における研究者の知的財産に対する意識と知識の涵養を図り、知的財産権に関するノウハウをレベルアップし、新産業創出に向けた土壌を構築するため経済産業省の助成事業の利用を図り、大学および公設機関等の研究者を対象としたセミナーを開催する

3. 販路開拓・販売促進事業

(1) 食関連コーディネート事業

経済産業省の新産業集積創出基盤構築支援事業を利用し、地域資源の発掘や産学官のネットワークを活かした新技術や新製品開発を進め、地域産業の活性化を図るため、コーディネーターの配置とコーディネート活動による新技術・新製品開発、農商工連携・6次化促進マッチング等を行う。

(2) 事業化促進支援事業

道内各地域でビジネス創造と特色のあるクラスターの形成によって、地域経済の自立的・持続的発展に資することを目的に、北海道内で生産・供給される商品（またはサービス）の改良・改善、新商品の開発から販路開拓、北海道ブランド化に向けたPR戦略の確立等といった一連の支援を実施する。

4. 中小企業人材育成事業

道内中小企業の経営に関する知識を深め、商品・製品のブランド価値の向上や付加価値向上に資するためのセミナー等の開催や人材の派遣を行う。

5. 地域の仕組みづくり事業

道内の各地域の産業クラスター研究会が取り組んでいる地域の「強み」や「特色」を生かしたものづくりや地場産業の振興、地域戦略の策定などの活動に対して支援を行う。(各地域の研究会、コミュニティービジネスへの支援を実施)

Ⅲ. ネットワーク形成事業

新たな成長産業群の創出等によって道内経済の活性化を図るため、地域の産業界、大学等研究機関、地方自治体、支援機関による「人」と「モノ」のネットワーク構築を目指す。

1. 北海道バイオ産業クラスター・フォーラム事業

世界市場を目指す中堅・中小企業や大学等が参加する産学官の広域的な人的ネットワークの形成により、地域経済を支え、世界に通用するような企業・産業の創出を図る。そのことによって新事業が次々と展開する産業集積の形成を進め、中小企業等の活力を効率的かつ効果的に高めていく。

2. 北大リサーチ&ビジネスパーク推進支援事業

北大北キャンパスと道有地を含む周辺エリアに良好な研究環境とビジネス環境が整備された「北大リサーチ&ビジネスパーク」（北大R&BP）において、産学官の協働によって研究開発の促進、大学等が保有する知的資産の有効活用、新技術・新製品の開発やベンチャー企業・新産業の創出を図る。

当財団は、その運営主体である「北大R&BP推進協議会」の事務局を担う。



北大北キャンパスとリサーチ&ビジネスパーク

3. JICA研修事業

北海道と海外諸国との国際交流や中長期的視点に立ったネットワークの構築に向け、諸外国の技術者、研究者などを対象とした研修事業を実施する。

IV. 産学官連携推進事業

産学官が連携・交流する「場」と「機会」を積極的に提供し、研究成果の実用化・事業化への支援を実施する。

1. 「コラボほっかいどう」の管理運営

北海道産学官協働センター（コラボほっかいどう）の共同研究施設の貸与を行うと共に、産学連携による共同研究が円滑に推進されるよう施設の適正な管理運営と、入居者等に対する各種サポートを的確に実施する。

2. 「グリーンケミカル研究所」の管理運営

世界最先端のグリーンケミカル生産技術（遺伝子組換え技術、密閉型植物水耕栽培技術、機能性抽出・評価技術）の実証・実用化支援と、企業等へそれらの技術を移転する“橋渡しの場”として「グリーンケミカル研究所」を管理運営する。

以 上



グリーンケミカル研究所